

講義科目名称： ホスピタリティ論

ナンバリング： N-12-05-D

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択
担当教員			
田中響 (t_hibiki@tcn.ac.jp), 土居裕美子			
授業形態	時間数		科目区分
講義	15時間		基礎分野【人文科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☐ 看護師資格必修 ☐ 保健師資格必修 ☐ 養護教諭二種免許必修 ☐ 看護師資格選択必修 ☐ 保健師資格選択必修 ☐ 養護教諭二種免許選択必修					
	ディプロマポリシーとの関連性 ☐ 広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☒ 高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☐ 専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☐ チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☐ 病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力					
	実務経験のある教員による授業科目の配置 ☐ 担当している ☒ 担当していない					
	実務経験を授業科目にどのように活かしているか					
	科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ☒ 受入可 ☐ 受入否					
	受入可能人数 若干名					
授業の概要	人が人を思いやり、寄り添う人間関係が基本にあることによって、看護はその力を発揮する。つまり、患者の思いを大切に受け止めて理解し、その心に寄り添い、患者にどう向き合うか、そこに看護の出発点がある。この基本を踏まえて、本授業では看護におけるホスピタリティとは何か、ホスピタリティはなぜ必要なのかを考察する。看護や介護、病院といった狭い人間関係に限定せず、日常生活の様々な場面を想定して、社会人としてのマナーやホスピタリティ・マインドのポイントとその技法を学ぶ。					
到達目標	・看護におけるホスピタリティの必要性を理解出来る。 ・相手の気持ちを知り、向き合って関わるために、自分自身を知る。 ・相手の気持ちに寄り添うということが自分にとってどういう事であるか、言語化できる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	・オリエンテーション ・ホスピタリティとは	講義	【予習】 ①自己紹介 自身がなぜ看護職に就きたいと思ったかを相手に伝える内容を考えてくる ②ホスピタリティについて調べてくる	1 時間	田中
	2	ポジティブコミュニケーション	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく	1 時間	土居
	3	自分を知る 表現する アサーション①	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく	1時間	土居
	4	私の表現の仕方について知る アサーション②	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく	1時間	土居 田中
	5	他者と自分の違いを知る アサーション③	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく	1時間	土居

	6	医療におけるホスピタリティを考える ・日常の場面で受けたおもてなし事例、実践したおもてなし事例を紹介しあう	講義	【予習】 ・患者・家族は医療に何を求めるか ・病がもたらすもの 日常との相違 (事前にこれらを考えておく)	1時間	田中
	7	医療者、看護師になるということ (大切にしたいこと)	講義	看護者の倫理綱領を理解する	1時間	田中
	8	ホスピタリティを実践する	講義	配布資料を読み私を表現する 看護を学び、生きることを楽しむ	1時間	田中 土居
先行履修科目	なし					
テキスト	授業で資料を配布する。					
参考文献	平木典子：相手の気持ちをきちんと〈聞く〉技術 会話が続く、上手なコミュニケーションができる！, PHP, 2013					
評価方法	レポート100% (課題レポート30% 最終レポート70%)					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法	毎回の授業の中で、フィードバックします。					
備考	10月に開催される「ねんりんピック」へボランティア参加 (10/19, 20) し、ホスピタリティの実践を行っていただきます。 授業の中でグループワークを行います。積極的に参加しましょう。					